

11 旅立つ娘に、今伝えたいこと

【里母】

暮れも押し迫り、「今年はお話はないかな」と思っていた頃、待っていた電話が来ました。待ち焦がれていた私は、一も二もなく「お受けします」と言うつもりでしたが、児童相談所の方の次の言葉に、返事がとまってしまいました。

「8歳の女の子、5歳の男の子、1歳半の男の子、3人兄弟で、できれば3人一緒に1週間の短期委託でお願いしたいんですが…。」

強烈な里親デビューでしたが、3兄弟のおかげでとりあえず児童、幼児、乳児がいる生活とはどのようなものか大体イメージがつかめました。この里子初体験の反省をふまえ、経験不足はせめて知識だけでも補おうと育児書を読んだり、乳幼児研修を受けたりしました。大分赤ちゃんのことがわかってきて、いつ紹介されてももうオロオロしないぞと思った頃、紹介されたのは高校1年生の女の子でした。乳幼児研修から一転「巣立ちに向けて」という自立する子を持つ里親対象の研修を受講しました。

初めて会った娘は、病気がちな母親に代わって家事をしたり、弟の面倒をみてきたそうですが、母親との不和が原因で家を出たいと希望したそうです。娘は毎朝6時に起床、7時に登校、帰宅後すぐに勉強、夜更かしはしません。試験中は朝3時に起きて勉強しているし、お箸は家族の中で一番正しく持ってきれいに使いこなし、正しい、美しい敬語で話します。文句のつけようがありません。けれど、私にはその完璧なまでのいい子さが、不安でたまりませんでした。

娘の行動で理解に苦しんだのは、洋服のことでした。娘が来て初めての休日、朝起きると、家から持ってきた洋服を着て机に向かっていたんですが、それがものすごくおしゃれ着だったので、「出かけるの？」と聞くと、「どこにも行かない」と言うんです。用意しておいた部屋着じゃ気に入らなかったのかなと思って、一緒に買いに行って、自分で選んでもらいました。ところが、次の日も今度は違うおしゃれ着を着ているんです。翌日、そのおしゃれ着を洗うと、たばこ臭く「ついに来たか！」と思いました。娘は喘息があるようなので、自分では吸っている様子はないんですが、周りでたばこを吸っているような場所に出入りしているかもしれないし、あんな大人っぽい格好でどこに行っているんだろうと、すごく心配になりました。かといって、変に問い詰めても心を閉ざしてしまいそうで、とりあえずもう少し様子を見ることにしました。

どうしたものかなと思っていた頃、児童相談所からの電話が入り、実母さんからの伝言が伝えられました。「・・・以上のような洋服、荷物にまぎれていませんか？お母さんの洋服を持っていつているようで、返してほしいと言ってきているんですが」

その洋服の特徴を聞いているうち、私は涙が出てきました。まぎれているも何も、その洋服だけしか持って来ていないのです。お母さんがたばこを吸う方だと聞き、たばこ臭かった

のも領けました。かわいそうでしたが、伝言どおり伝えると、「私に買ってくれたものもあるけど、そう言うならそうなんでしょうね。分かりました。明日全部返してきます」と平気そうな顔をしましたが、「今度洋服いっぱい買いに行こうね」と言うと、ポロポロ涙を流しました。持ってきた娘の衣類は、制服とパジャマと下着が2枚ずつ、それだけになりました。お母さんの洋服だけを持ってきて、むきになって着まくって、洗濯かごに放り込んだ娘の心を思うと、これからしっかり寄り添っていかなければと思いました。

娘は、大丈夫じゃなくてもいつも「大丈夫です」と言い、無茶して肝心な時にダウンします。娘はひどい虐待を受けていたわけではありませんが、母親が病弱で、弟の面倒をみなければならず、具合が悪くても言えなかったり、言ったとしても介抱してもらえなかったりという状況から、どんどん我慢強くなり、痛みに鈍感になってしまったのかもしれない。また、初めからどこか全てにおいて諦めているようなところもあり、進路を決める時期になってもどこか覇気がなく、何もかも人ごとで、気に入っていません。どうやら弟のことが心に引っかかっているようでした。自分は思い切って飛び出してきてしまったけれども、すべてを弟に押し付けてしまった罪悪感、後ろめたさで苦しんでいたようです。その様子を知った私の姉が、娘あてにこんなメールをくれました。

「今、あなたがすべきことは、弟にご飯を作ることじゃない。将来、弟が頼ってきた時、力になれる強い姉になること。まずは、自分が1人で立たなきゃ、泣いている場合じゃないよ！」

メールを読んだ娘は泣きながら「すごくよくわかりました」と言い、何か吹っ切れた表情になりました。その昔、大きな家出をし、意地を張って生きてきた姉だからこそ言えた言葉で、その時の娘に一番必要な言葉だったようでした。娘の目に力が出てきました。早く自立したいと、就職活動に入り、今年はかなり厳しい状況でしたが、おかげさまで先日内定通知をいただき、ほっとしたところです。

あと半年で、娘は我が家から卒業します。娘には、『あなたのことを心配している人間がいること、心配されるに値するその命を大切に生きてほしいこと』、これだけは伝えたいと思っています。「困ったときはいつでもおいで」と送り出せたらと今思っています。

この発表を通し、改めて多くの方々に助けられ、里親をやらせていただいていると感じました。これからも周りを巻き込みながら続けさせていただきたいと思っています。つたない体験談をお聞きいただき、ありがとうございました。



12 施設も里親も長い目で

【里母】

私の経歴を申しますと、短大の実習に行った先の園長と子供にも惚れてしまって、その施設で就職させてもらうことになり、38年間その施設で過ごしました。

その施設には、その後、養育家庭の支援事業をする養育家庭センターができ、私が養育家庭のワーカーをやっていた時期がありました。その経験から、里親さんで育つ子供は、もちろん途中でいろいろ大変なことがあります。1対1の関係とか大人を信頼する気持ちがすごく植えつけられてると感じて、私の子供を育てる仕事の最終的な仕事はこれだなと、退職したら養育家庭をやろうと考えていました。

養育家庭に登録した年の12月、小学校5年の男の子の話がありました。その子は、一時保護所からという制約もあって、「本人の希望と合わなければ委託は難しいから」と、年末年始に、あわただしく急な面会や外泊となりました。外泊後2、3日で、「おれ、おばさんちにいてもいいよ」ということで委託となりました。短期間の予定でしたが、6年生を卒業するまで1年3カ月ほど一緒に生活をしました。

その子は、不登校があったので、学校に行くかなとすごく心配していたんです。でも幸い、私は、勤め先や住まいの関係で、担任の先生とは顔なじみでした。顔合わせのときに担任の先生が、「学校に来られなかったら僕が迎えに行くから」と子供の前ですべて言ってくれたんです。たとえそれが現実にならなかったとしても、子供の前でそういうことを言ってくれるのがすごくうれしくて、頑張る力が湧いたんです。

けれどやっぱり学校はなかなか素直には行けなくて、学校に行く時間になると押し入れに隠れたり、ベランダに隠れたりしましたが、私は施設で鍛えられていることもあり「学校は行かなくちゃだめなんだ」と強引に行かせて、結局、先生に一度も迎えに来ていただくことはありませんでした。でも、その子はやっぱり落ち着きませんでした。テレビを見ていても子グマが動き回っているみたいにうろろしたり、手当たり次第に物を投げたり、犬のひげを切ってしまうたりするんです。私も腹が立って、年齢も高かったので、「あなたは選んで私のところに来たんでしょう。私は楽しい生活をしたからあなたと一緒に暮らしているので、楽しい生活ができないんだったら、選んだことをもう1回考え直してちょうだい」みたいなことを言って迫ったこともあったんです。全体的に自信がない子でしたが、運動会のあるときに係の仕事や組み体操を実際にやってみたらすごくうまくいったんです。それが自信になってお友達もでき、6年生になってからは我が家に毎日5～6人の子供が遊びに集まってきて、高学年の学童保育状態でした。その子は、勉強はできるお子さんだったので、最後の卒業文集には、「おじいさんがお医者さんだったので、僕はお医者さんになりたい」と書いて、先生も、「ここまで成長したね」とすごく喜んでくださいました。

2人目の子は縁のある子で、お母さんが私の施設にいて、お母さんも精神的な浮き沈みの

すごく激しい方だったんですが、その子も気分のむらや浮き沈み、感情の爆発もありました。私が養育家庭のワーカーをやっているときに1回養育家庭に預けたんですが、1年ほどたって突然に施設でみることになったんです。里親になってから、私は年の小さい子を受けたいと思っていたんですが、学園の要望もあって、中学3年生になるときに我が家に来て1年半になります。

委託になってから、本人も楽しくやってきていたんですが、本当に周りの状況が見られないというところがあって、望みは高いが努力をしない。高校は入学式から遅刻。通学も1日目から遅刻。1学期はほとんどまともに学校に行くことがなくて、吹奏楽部のためだけに行っているみたいで、夏休みに先生から、「この調子だとだめだから、退学届を出せ」と言われて、やっと2学期の始めからはまともに学校に行くようになったんですけども、2学期の中間テストをし、部活が終わった途端にまた遅刻が始まって、学校にも行かなくなりました。

枠がないと、自分で自制して考えてやるということがなかなか難しい子で、施設の大人の目と子供の目があって今までの生活が保っていたのが、施設にいるという飢餓感から、家庭に行ったら思うことができるんじゃないかと思い、それが今爆発をしているのかなと思っているんです。うちで里親の目だけでは、なかなか学校に行かせられるだけの力にならないということであるならば、施設に戻すことも考えざるを得ないのかなと今悩んでいるところです。

養育家庭に行った子のなかには、一度学園に戻ってきた子供が、再度同じ里親さんに委託されたとか、一時期里親さんとトラブルになったケースも年月が経ち、再度里親さんと交流するということがあります。結婚して子供が生まれて、おじいちゃんになった里親さんの面倒を見ているようなケースもあるんです。だから、里親さんが大変なときには、一時休んでもらって、また違う形で頑張ってもらうなど、長い目でみて子供にとってどうなのかということによって皆が考えていくと、もう少しいろいろな形でいい方向が見えてくるかなと思います。

だから、そのためにはどういうことができるのか考えたときに、大変なことがあったとしても、夫婦や子供がお互いに愛情を持って毎日を暮らす、普通の家庭生活なり社会生活なりを目に見せて経験させてあげることが子供たちにとって一番大切なことじゃないかなと思うんです。

そういうことで、ぜひぜひ周りの皆さんにはいろいろな形で協力をしていただき、子供たちの状況も理解していただきながら、力になっていただくことも大切だと思います。



13 「癒し」を感じてくれたら

【里母】

私が里親になったきっかけは、子供が好きということが根本にあります。子供を大勢育てられたら楽しみも沢山あると思ったからです。また、毎日のように子供の虐待問題が報道され、それを見て何か助ける方法はないかと私なりに心を痛めていました。そんな時、友達から養育家庭制度の話聞き、少しでもお役に立てればと思って里親になりました。

現在、里親になって3年目ですが、最初、数日間小さいお子さんを2度ほどお預かりした後、中学2年のK君を受託しました。当時、長女がまだ7歳でしたから中学2年の男子の状況が私には良く解らず、ただK君を今までどおり学校に通える体制をつくってあげたいという思いで簡単にお預かりしました。K君は、おとなしく心も優しいのですが友達にすぐ流されやすく、友達が何かするとそれが自分の行動の規範となって親が何を言っても、友達がこう言ったということでそっちに流されてしまいます。

K君を見ていると彼の問題性は、親の虐待よりも過保護にあったように私には感じられたので、時には厳しく対応したこともあります。K君は、自分が何かを間違ったとき「これは違うよ」と言うのと謝るのではなく、何としてでも自分を正当化しようとします。例えば門限です。最初は、午後6時にしていたのですが「6時では早すぎて友達と一緒に遊べない」と言うので責任を持って守るなら、試しに本人が希望する10時まで許したことがありました。しかし、10時になっても連絡せず、11時頃帰って来て「ご飯ください」となります。ご飯を作りながら「次からは電話してね」と言うのと「はい」と言いますが、また同じことが繰り返されます。そこでまた門限を6時に戻すと言うと大暴れし、「門限を6時にするなら自分は死ぬ」と脅します。「門限を決めるのは、あなたを守るためなの」と言っても悪くしか受け取りません。

電話も同じで、通話は1回10分以内で切るように言っても、子機を自分の部屋に持って行き長電話をします。携帯を貸してあげても同じで、約束を守れません。

でも、そんなK君もうちの子供たちとすごく仲がいいんです。私に怒られると子供たちがK君のところに行って、「お兄ちゃん、大丈夫？大丈夫？ママね、怒っていてもお兄ちゃんがこれやってちょうだいと言ったら全部やってくれるんだから、心配しないでね」と言っています。そうした中で自分は不幸ではないこと、そして周りに感謝する気持ちを起こしてもらうためにいろいろ工夫してみましたが、受託した期間が短かったのかうまくいきませんでした。

K君の後、高2の女子を受け入れました。最初に来た時は明るくて、学校から帰って来ると暫く皆とテレビを見てよく笑い、話をしている時も大人しく返事もよい子でした。

しかし、お風呂に入るとお湯を出しっぱなしにします。「使わないときは、お湯の栓を締めてね」と注意するのですが、最初は、「はい」と言って締めるのですが続かないんです。

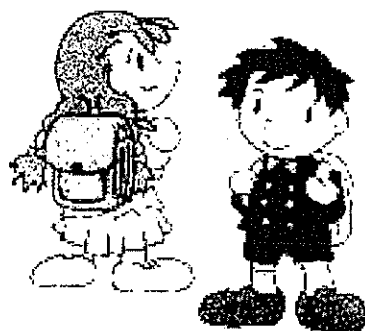
自分で気づくまで待つてあげるのも大事ななと思えばらくそのままにしておいたんですが、3～4カ月して、また「あなたはお風呂でお湯を出しっぱなしだけど、栓を締めたり開けたりすることはできないの？」と聞いてみました。すると「できます」と気持ちよく返事をするので、強く説得しようにもできません。出来るようになるまでにはちょっと時間がかかるなと思いました。

もうひとつ彼女に声をかけているのは自分の部屋の掃除です。一度、掃除をするため彼女の部屋に入ってみると、ほこりと髪の毛が綿のようになっていました。衛生的にも悪いので「掃除をきれいにして、ごみも捨ててね」と言いました。普通の家庭で育った子供ならそんなことを言わなくても解るのですが、彼女の場合はきちんと躡けられなかったのだと思います。また、「今日はごみの日だからごみを出してね」と言うと、その時は持って来ますが、言わないと相変わらず部屋はごみだらけになっています。そういうところがまだ自立していません。K君は怒ると掃除機をかけてくれましたが、彼女は返事をするものの掃除機をかけるのを見たことがありません。でも、放っておけないので彼女が学校に行った後、私が掃除をしています。

こうしたことができない原因を私も真剣に考えました。K君のときは、怒ってでも彼にやらせることができましたが、彼女には怒れません。ちょっと怒ると彼女はすぐパニックになってしまうからです。だから絶対怒らずに、これはこうしたほうがいいよという言い方をしています。最近、来た時と違い会話も少なくなっています。洗濯物を子供達がお姉ちゃんの部屋に持って行って「お姉ちゃん、これを持ってきたよ」と言っても返事がありません。ご飯も黙って食べるのでうちの小さい子供が「お姉ちゃん、おいしい？」と聞きますが「うん、おいしいよ」くらいの返事しかありません。

なぜそうなったかというのは、やっぱり心の中に誰もさわれない、自分にもわからない傷があるのかなと感じています。その傷が、私たちの家庭に来て少しでも癒されて、後で社会に出た時に、あの家で自分は本当に休めたという思い出が残れば、他に何も望みません。今は学校にも毎日行っていますし、バイトもしてごく普通の生活をしています。

今後、私は、小さい子を2人ぐらいわが家の仲間に迎え一緒に成長できるようになったらいいなと思っています。私は楽しんで養育家庭をやっています。



14 不安を乗り越えて

【里父】

10年前に母が亡くなり、部屋が幾つか空いて、ガランとした家に女房と2人である翌年に、三宅島の噴火がありました。突然住む家を失った子供たちの映像に大分熟くなり、その三宅島の子供たちを助けようということではないですけど、行き場を失った子供たちを何とかしたいということで、里親登録に踏み切りました。面接や研修を受けて認定書をいただき、そんなに遠くない時に声がかかるのかと思っていたら、1年たっても何の音さたもなく、あの時のホットな情熱もだんだん薄れかけていた頃、電話をいただきました。私達の受け入れ条件に国籍や肌の色は問わないということがあったので、その子は中学2年生の女の子で、日本人ではありませんでした。一時保護所に預けられているというので、ちょっと暗いトラブっている子で、これはなかなか大変かもしれないと大分覚悟をして行きましたが、面会を試みるとすごく明るい女の子で、はきはきとしていて、あまりの予想の違いに、その後すぐ「ぜひお受けしたい」と言ってしまったんです。「これから学校はどうするんだろう？」「勉強の継続性をちゃんとつくっていかなきゃならないから・・・」と彼女がもう来てくれるつもりで、だんだん逞しくなっていく想像を抑えながら、しかし来るか来ないは半々位だからと、大分気を沈めて帰ったんです。そうしたら、翌日早速「本人が、ぜひ行きたいと言っている」と電話がありました。「できたらすぐに引き取りに来ていただけないか」と、1年以上ぶりに紹介していただいて、たった4～5日間の出来事でした。

彼女は生まれたばかりで両親が離婚し、9歳の時に日本に来て実母が再婚。またしばらくして離婚し、もう一度日本人と再婚をした時に虐待があり、1人で警察に逃げ込んで保護されました。また本名は非常に長い名前で、それを使ったらとてもじゃないけれど大変で、不安の塊みたいな状態で小さなボストンバックに身1つで来た彼女に向かって—非常に残酷だとは思ったけれど—恐る恐る、「君、生まれた国の学校では何て呼ばれてたの？」と聞いたんです。そしたら、「M」って小さな声で答えました。親しんでいた名前だったので、「これからMちゃんって呼ぶけど、いい？」と聞いたら、緊張した顔にちょっと白い歯だけがこぼれて、何とか受けてくれそうだなという感じがしました。新しい生活が始まり、彼女の日本語がどうもちょっとおかしいんじゃないか、と思うことがありました。夜、月を見て、「きれいなマンツキ（満月）」って。本を読ませると、「ビルがハヤシダテ（林立）」、「ウシロオシ（後押し）」。これはいかん、何とかしなきゃ、と夕食を女房が準備してくれる時間、「Mちゃん、日本語の勉強を絶対にするからね」と、新聞の易しいコラムを幾つか引っぱり出してそれを声に出して読ませ、これを1年以上続けました。そういう生活の中で、初めのうちは緊張の塊のようだった彼女も、食卓で何でも雑談を言えるようになり、これは心を通わせるいいチャンスだと、不満はないか、あれもしたら、これもしたらと、親切のオファーを繰り返しました。ところが、そういうことをしていくうちに、せっかく喋り出して

いた彼女の方がだんだん寡黙になってきて、せつかく心の通う対話を試みようとして懸命になっていたにも関わらず、どんどん心が遠ざかっていき、これは反抗期のこともあるのかと、知り合いに相談しました。その人は「子供なんて与えて、与えて、そして与えて終わりよ。あと見返りなんか期待したら絶対にだめ」と、真剣な顔で私に言ってくれたんです。来たばかりの彼女にも大きな不安や焦りがあるのに、こちらが与えよう、与えようとしていた親切は、自分たちの不安、焦りの解消の方を彼女のそれよりも優先させてしまった結果ではないかなと、気づかせてくれました。そういう気持ちで接していくうちに、息の詰まるような食卓の状態は消えていきました。どこの家庭も通過しなきゃならないトンネルのようなことだったのかもしれないけれど、Mちゃんが来て3カ月位して、買い物の帰りに、突然彼女の方から腕を組んできたんです。「はっ」と思ったけど、本当に嬉しかった。彼女からの初めてのスキンシップでした。それからすぐに、いつだったか忘れましたが、彼女の方から「ママ」、「パパ」と呼んでくれるようになりました。そして、その年の夏の前、彼女が「友だちを呼んできていい？」と聞いてきて、「もちろん呼んできていいよ」と返しました。友だちと大変楽しい時間を過ごし、それ以来彼女は休みになると友だちを家に連れて来るようになりました。漸くこの頃、この家庭が自分の家だという気持ちになってきたんだなという感じでした。

最後に、Mちゃんが高校3年生の時、一時保護所のことなどを振り返って書いた文書があります。少し長いのでそのところを一部だけ抜粋します。

「私の母は、ある日本人男性と再婚をし、私は日本に移り住むことになった。果たして日本で暮らしていけるのかという不安もあったが、それよりもたくさんの希望で胸がいっぱいだった。頭の中では将来の自分の姿が次々と描かれた。あこがれの日本での幸せな生活が待っているのだと信じていた。しかし、現実はそう甘くなかった。母の再婚相手と色々なトラブルが起きて、結局私は児童相談所に保護された。そこで自分を担当してくれた児童福祉司の方と、今後どうするかについて何度も話し合った。その結果、自分は母のいる家庭には戻らずに里親の元で暮らすことを決心し、里親を探すことになった。だが、私の場合、周りの日本人の子が里親に引き受けられていく中、外国人であるためになかなか里親を見つけることができなかった。なぜ13歳の自分が、何も悪いこともしていないのに一時保護所に四六時中いなければならないのか。毎日悲しい思いで過ごした。私の担当の児童福祉司の方は、そんな中で私の惨めな状況をよく理解してくれて、勇気と希望をくださった。今後のことについて、あきらめずに何度も話し合ってくださいました。その結果、一時保護所で生活を始めて2カ月たったころ、ついに引き受けてくれる里親があらわれたと聞かされ、次の週、会うことが決まり、その後、その家庭に行くことが決まった……。」

15 おうちかえる～

【里母】

現在、6歳の女の子を1人預かっていて、2年半が過ぎました。

まず、里親になろうとしたきっかけは、結婚して子宝に恵まれなかったからです。夫は、私の子供が欲しいという気持ちはよくわかってくれていましたので、あまり気が進まないようではありましたが、反対はしませんでした。

うちは就学前の女の子を希望していました。登録1年後、ようやく3歳の女の子と交流できることになり、乳児院に会いに行きました。滑り台のてっぺんにいる子に職員の方が「Aちゃん」と手を振ると、その子もこっちのほうを向いて手を振り返りました。かわいいと思いました。

下におりて庭に出ると、Aちゃんは、砂場で遊んでいました。私と夫と職員の方とでAちゃんのいる砂場の前まで行きました。私はしゃがんで二言三言言葉をかけてみましたが、Aちゃんは四つんばいになって何も言わず、とても困ったようにじっと固まっていました。

その後、Aちゃんは私を見ると保育士さんにしがみついて泣きました。私がほかの子供と遊んでいると陰に隠れて時々ちらっとこちらを見ますが、私が近づくと逃げ回ったり、職員さんに絡みついたり、最後に帰るときだけ「バイバイ」と元気に言うんです。何回行っても、なかなか進歩がなくて、気が沈み、疲れがどっと出る感じでした。

そんな日が続いたある日、心理療法士さんから、「Aちゃんは初めお母さんと2人でべったりと暮らしていたんですね。それからこの乳児院に来て、その後別の里親さんのところに行ってまたここに帰ってきてという今までの経験から、親しくなって心を許すと後で自分が傷つくことになるということを読んでしまったんですね。あんな態度であっても、実はもうかなり信頼はしていると思います。一度何か楽しい経験をするとそこからぐんと急速に近くなると思います」と言われ、私の気持ちもかなり楽になりました。「でも、Aちゃんが嫌だ嫌だどぎゃんぎゃん泣きわめいているような状態でお散歩に行きなさい、お出かけしてきなさいと押し出されても、無理やり連れて外を歩かせませんし、それこそ子供をさらってきたと思われてしまいますよね」と不安な気持ちを伝えますと、「それは大丈夫です」と言われましたが、やっぱり不安でした。

その後も、保育士にしがみつき、暴れて泣くAちゃんとの格闘が続きましたが、途中からだんだん泣くのが治まってきました。初めは嫌がっても保育士と離れてしまえば大丈夫みたい、うちに連れてきてしまえば何とかなのではないかと思いました。

12月の末から何回か自宅への外出や外泊が始まりました。この頃から私は左足にしびれを感じるようになり、そのうちに両足とも痛くなり、また腰もと、体に不安を感じるようになってしまいました。整形外科に行っても何だかわからず、絶対におかしいのにどうしちゃったんだろうと思っていました。乳児院の職員さんからは、一度、前の里親さんと不調に終

わってしまっているのです、今度こそそれは避けたいと言われていましたし、心理療法士さんの話を思い返しても、この後私がAちゃんを返すようなことになったらまた傷ついてしまう、私だってせっかくここまできているのに返したくありません。でも、返すことになってしまったら、もう二度とチャンスはないだろうと、悩んでいました。お泊まりの2回とも帰りは車で送りました。施設に着いて降ろそうとすると、「おうち帰る」とわっと泣き出しました。もううちの子です。

痛みが一番ひどいときに、「だっこ」と言われ、「だめ、腰が痛い。お願いだから」と言っても聞いてくれず、泣いてせがまれるのがとてもつらかったです。みんな子供がいれば当たり前のことなのでしょうが、その頃、家の中はどんどん汚くなって、理想と現実の違いを実感しました。

Aちゃんは元気な子で、年中布団をはねのけ、おなかを出して寝ていますが、まだ一度もおなかをこわしたことがありません。いつも跳びはね、走り回っていて、周りを見ずにどこでも突進していくので、危なっかしくはらはらさせられます。指しゃぶりや爪をかむ癖もあり、手の爪は1度も切ったことがありません。これもどうしたものかと心配しています。

幼稚園は大好きで行くのを嫌がったことは一度もありません。靴も靴下も毎日真っ黒、どろどろに汚れて、服のポケットには、砂粒や木の実、葉っぱなどがいつも入っていて洗濯が大変ですが、お友達と元気に遊んでいる証拠とうれしくもあります。朝起こしに行くと、布団の中で逃げ回り、食事や着がえなどの支度は、しゃべったり遊んだりしていてちっとも進まず、「早く食べなさい。次は何するの。何やっているの」など、始終どなり、せかす毎日です。

幼稚園のお友達のお母さん方には、最初の懇談会のときに、「うちは養育家庭というのをしています、Aの里親で」と自己紹介はしていますが、そんなことは何も関係なく、ちっとも気にされず、私はAちゃんのママで通っています。

毎日見っていますが、本当に大きくなったなといつも思います。寝顔はとてもかわいらしく、見ていて飽きません。抱っこの感触は何とも言えずいいものです。

普通に親として気がかりなことや心配なことは幾つもありますが、親子関係では今のところ問題ありません。心配なことの幾つかは、個性でもあるかもしれませんが、これまでの生い立ちが影響しているかと考えることもあります。

私どものように、子供を育てたいと思っていてこの制度をまだご存じでないご夫婦も結構いらっしゃるのではないかと思います。子供は純粹ですから、一度信頼関係ができ上がってしまえばもう大丈夫で、どんなに怒られてもお母さん、お母さんです。小さいうちがいいと思います。子供たちみんなが当たり前の家庭での暮らしの中で大きくなれるように願います。

16 コウノトリが運んでくれた宝物

【里母】

我が家では、1年9ヶ月前に3歳の男の子を迎えました。実子がないので、夫と私とHの3人家族です。

初めての面会の日、Hの暮らしている乳児院に行きました。事前に写真をもらっていたので、部屋に入ってすぐにこの子だと分かりました。Hは鼻の穴を膨らませて固まってしまいました。私たちも笑顔が引きつっていたかもしれません。お互い緊張でいっぱいになっていて、ただ見つめ合うばかりでした。その時の光景は今でもはっきりと覚えています。

交流を進め、初めて我が家に連れて帰る日は本当にドキドキしました。Hは走ったり、踊ったり、歌ったり、家中の家具や家電のスイッチを全部つけて回り、電気のスイッチをずっとパチパチ、テレビのリモコンをつけたり消したり、ずっと動き回り、触りまくり、本棚の本を全部引っ張り出してみたり…。私はその後ろを追いかけて片付けて回り、それでも楽しく1日を過ごしました。

その後も外泊交流を繰り返し、3歳の誕生日の前日に長期外泊に入り、そのまま正式委託となりました。3歳の誕生日は一緒にお祝いしたいという私たちの想いがあったので、本当に嬉しくて親の私たちのほうが楽しい誕生日を過ごすことができました。でも、この長期外泊に入ってから、Hに振り回される毎日が始まりました。

毎日訳の分からないかんしゃくを起こし、一度泣き始めると2～3時間は泣き続け、その間暴れて私に体当たりしたり、拳で叩いたり、体が大きくて力が強い子だったので、本当に痛かったです。その相手だけで1日が終わってしまうこともありました。なぜか夫にはやらずに、私だけに繰り返しました。

それから、私から離れなくなりました。一日中抱っこで、10センチでも離れると泣き叫びました。当時3歳で97センチ、17キロあったHを抱っこして、スーパーまで片道30分歩き、帰りは片手にH、片手に荷物という日々を過ごしました。乳児院では取れていたオムツも、我が家に来た日から逆戻り。オムツをしているのに、わざと私の前でオムツを脱いで絨毯の上でおしっこをしたり、いろいろな事をやってくれました。研修では、「あまり叱らないで何があっても受け止めてあげてください」と言われていたので、毎日抱きしめて大好きだよと伝えて、スキンシップを大切にしました。

でも、そんな日々が3週間続いた頃、ついに私の気持ちが切れてしまいました。Hは私が泣くのを見て、初めはびっくりして自分は泣き止んでしまいました。そのうち「ママ、泣かないで」と言って一緒に泣き出し、2人で抱き合って30分くらい泣きました。翌日は児童相談所の方の家庭訪問の日でした。私は自分が泣いてしまったことに落ち込んでいましたが、「子供だって一人の人間ですから、そうやってぶつかって関係が出来ていくんですよ」との言葉で肩の力がふっと抜け、楽な気持ちになりました。

それからは、お互いに遠慮はなしという気持ちで真剣に向き合っていました。そうする

と、楽しいときは本当に楽しいのですが、ぶつかる時は本気なので、どちらかが根負けするまでという感じで結構大変な時もありました。でも、H はこちらが真剣に向き合っただけ殻が剥がれていくようでした。

いろいろと考えた結果、我が家で生活を始めてから 2 ヶ月後に幼稚園に入園しました。後から、せめて 1 年は家でみっちりと関係を作ればよかったと後悔しました。H は慣れない環境が重なって本当に大変な思いをしたと思います。幼稚園から帰ってきてからのかんしゃくは、どんどんひどくなっていきました。同年代の子供に対しては、大人の愛情を取り合う敵という態度で打ち解けず、先生や他のお母さんに対しては注目してくれるまで愛嬌を振りまくような行動を取りました。そのような時は必ず、ママはあっちに行ってというような態度を取っていました。

初めの半年くらいは本当に大変で、毎日が必死であつという間でした。それを支えて励ましてくれたのは、夫でした。私は夫が仕事から帰ってくるのを待って、1 日の出来事を弾丸のようにしゃべりまくり、夫はどんなに仕事が大変なときも話をじっくり聞いてくれました。お休みの日には一緒に遊んで、私を休ませてくれました。大変なときを乗り切れたのは夫婦の協力があつたからこそだと思っています。

H と暮らし始めて 1 年が経った頃、突然他のお母さんたちみんなを「お母さん」と呼び出したことがあります。よく聞くと、H の頭の中には家族とかお父さん、お母さんという概念がないことに気が付きました。私はお母さんの意味を H に説明すると、H は本当にビックリしていました。それまで H は、友達のお母さんはみんなその子の担当の保育士さんだと思っていたようです。それから周りの大人たちに愛嬌を振りまく行動がだんだん収まってきました。

お母さんの話は、真実告知にもつながっていきました。私が「H もダンボと同じで、コウノトリさんが運んできたんだね。お父さんもお母さんもかわいい赤ちゃんが欲しいですと毎日お祈りしていたら、連れてきてくれたんだよ」と言うと、H は「そうか、コウノトリさん迷子になったから、だから H ちゃんは遅く来たんだね」「お母さんから生まれてくる子も、コウノトリさんが連れてくる子も、どちらも大切なかわいい家族なのよ」というように、分かりやすく楽しく話しをしています。H はこの話が大好きで何度も繰り返して言っていました。

うちに来た頃の臆病で新しいことには手を出せなかった H は、今ではどんなことにでも挑戦できるようになりました。子供は、安心して子供でいられる場所が必要なんだと、H を見ていると強く思います。これからも、H はパパとママの宝物だということをずっと伝えていきたいし、何かあったときに安心して帰ってこられる港でいたいと思います。たくさん笑って、泣いて、怒って、遊んで、毎日を丁寧に積み重ねていきたいです。そして H にもらっているこの幸せを、私たちも H にあげられたらいいなと思っています。

17 幸せ路線へ

【里母】

私たちにとって初めての里子ちゃんのKちゃんは2歳で、1ヶ月程お預かりする予定で我が家にやってきました。事前の交流は里母のみ2回しただけという心細いものでしたが、実子が8歳と3歳の女の子がいたので、我が子をあやすような気持ちで接しました。最初、Kちゃんはとても怖がって泣いていましたが、2回の交流ながら仲良くなることができ、我が家へ来るといふ事も彼女なりに理解していたようです。

何の問題もなく家に着いたのですが、一息つくと、いきなり「お父さんが怖い」と言い出しました。もちろん、事前に夫とは会った事も無いので、彼女が実の父親を怖がっているという事なのだとして理解しました。その夜、夫が帰ってくると、彼女が話してくれた事が本当なのだとして分かりました。実子達が玄関の音で「あ！お父さんがかえってきた！」と喜んで飛び上がると、正反対に「お父さん」という言葉にビクッと反応して号泣しているKちゃんがいるのです。仕方なく私が抱き締めて、「大丈夫だよ！怖くないんだよ」となだめましたがパニック状態で、お父さんが離れているしかありませんでした。

毎日帰ってくる度にパニックを起こす彼女の為に考えついたのは、柔らかいソファーに毛糸で編んだ大きなひざ掛けを置き、シェルターを作ったのです。「これはシェルターだから、怖いと思ったらここへ逃げ込む場所なんだよ。うちで怖いことは起きないけど、怖いと思ったらここへ逃げればいいんだからね」と教えたのです。まずは、彼女が安全と感じる場所を作ることが大切だと思ったからです。

彼女は「お父さん」という言葉が出る度に、夫が帰ってくる度にシェルターに逃げ込んで、毛糸の隙間から周りをじいっと見ていました。そこから、怖いと思っていた「お父さん」という存在を観察して、「怖くないんだ」という事を実感したみたいです。段々とシェルターに入っている時間が短くなって、2週間ほどで必要なくなりました。

彼女は本当に可愛い子なのですが、色々な場面で何かが難しくなっていました。下の階に住むおばあちゃんに挨拶しに行こうとして号泣。食事の度に、排泄の度に、何がきっかけとしてうわんうわん泣き出すのです。よく分からない私達にとっては、毎日の生活は急に緊迫したものになりました。食事の度に泣くので、熱々の食事が冷め切ってしまうという事は幾度もありました。本来なら楽しい幸せな時間が、彼女にとってはそう感じられなかったのでしょう。それでも、児童相談所の里親担当の方に話を聞いてもらったり、家族みんなの力を借りたりして少しずつ楽しい時間を増やしていく事ができました。

Kちゃんは注意される事も怖かったようです。「これはだめよ」という何気ない注意が、彼女にとっては恐怖でした。急に泣いて「眠い」と訴え始めるのです。そして、まるで覚めない悪夢の様に硬く目をつぶって泣くのです。泣いて「眠い。もう眠いの」と懇願するよう言う彼女は、小さくて何の力も持たない分、必死に自分の事を怖い何かから守ろうとして

いるんだな、一生懸命生きているんだなと感じました。ただ、そんな方法でずっと逃げて生きていく訳にもいかないので、「Kちゃん、目をあけてごらん。本当にKちゃんが怖いと思っているお顔かな？よく見てごらん」と根気強く語り掛けました。すると最初は怖くてギュッと閉じた目を、少しずつ少しずつ細目から段々と開けてくれました。「同じ顔してる？」
「違う」「でも怖かったんだ？」「うん」と。こんなやり取りを何度もして、怖い事、辛い事から逃げるのではなく、違う方法を探そう！と彼女なりにチャレンジしていたようでした。里親とは、私は電車の切り替えポイントみたいだなと思います。Kちゃんの1つ1つの行動は不幸路線でした。食べたいのに「食べたくない」、欲しいのに「いらぬ」と、ことごとく彼女の思いとは反対の事をやって苦しんでいました。常に生活の中で、本当にやりたいのはどっち？と一緒に見極めて、望んでいる「幸せ」行きに積極的に進んでいく方法論を探す、そんなポイントになればと思います。

Kちゃんが段々と無邪気な笑顔になっていく中で、一番素敵なお時間だと思った瞬間があります。ある日曜日の暖かい日に、自転車で出かけたのです。信号待ちの間、ほんわか暖かい南風が吹いてきて、春のおひさまに照らされながら自転車の前かごにぼーっと、のんびりした表情でKちゃんが座っていました。それを見て、これが幸せだと実感しました。力を抜いて、この何気ない日常を、自然に楽しめることが、いかに大切に貴重なのかと思いました。里親が何を出来るかって、このささいな幸せと一緒に味わうということだけなのかも知れないとも思いました。

最後に、忘れられない言葉があります。サヨナラの前日、足りない服などをKちゃんと二人で買いに行ったのです。少し寒い風も吹いていて、バギーに乗った彼女に膝掛けを掛けてやりながら、ふと「この子本当に大丈夫かな。せっかく戻った笑顔が消えずにこの先元気に生きて行ってくれるかな」と我が子として本当に心配でした。泣き虫で、反対の事ばかりやるわけだから。でも、どうにかして幸せになって欲しい。そんな思いが溢れてしまって、何も言えずに、ただ「かわいいね」と頭をなでたのです。すると、Kちゃんは「泣いちゃダメだよ」と。私が泣きそうに見えたのでしょう。さらにKちゃんは「だめだよ。自分の気持ちに負けちゃだめだよ」と言ったのです。私が彼女にずっと言ってきた事でした。本当に怖いかどうか、自分の気持ちに負けて目をつぶってしまったは見えない。「自分の気持ちに負けちゃだめだよ。ほら頑張っごらん」そう言ってきた事を、最後の最後にKちゃんに言われ、彼女の私を上回る成長振りに感動しました。正直涙が出そうでしたがグッとこらえて、「あんたには負けたよ。かーさんもがんばるね」と私が言うと、「ふふっ」と笑っていました。

どんな辛い時でも、この彼女がかけてくれた言葉を思い出します。そして、この言葉を持って里親を続けて行こう。もし、いつか再会出来る時に、彼女に負けない強く優しい人になりたいと思います。

18 長い交流を乗り越えて

【里母】

子供が来てまだ半年の新米ママですが、今までの1年間の心境をお話しします。

2歳7ヶ月になる女の子Aちゃんが我が家に来て、7ヶ月になります。私たち夫婦は結婚20年になりますが、実子に恵まれませんでした。40代中盤にさしかかった頃、子供と触れ合いたいと急に思うようになり、それがきっかけで里親登録することになりました。

今からちょうど1年前、その時1歳7ヶ月だったAちゃんの話を読みました。生まれてからずっと乳児院で育ってきたAちゃんはとても人見知りする子でした。初めて乳児院を訪れた時の、彼女の顔を今でも忘れることができません。すごく意識する子で、私たちは何となく部屋を見渡すような感じでただ見ただけなのに、彼女だけがピクンと反応して固まってしまったのです。固まり方も尋常ではなく、顔の半分がカッと麻痺して固まる感じで、口からタラッとよだれが出ちゃって。部屋の端に座って全体を見学したのですが、その間ずっと固まっていました。

その後しばらくの交流は、何人かの子供の中に保育士さん達と一緒にボランティアさんのように加わりお付き合いしました。でも何度か通ううちに他の子は顔を覚えて寄ってきてくれるのに、彼女だけはいつまでたっても懐いてくれませんでした。

1ヶ月くらいで私がそこに存在していること自体には慣れ、近くに来れば触れるということくらいは出来るようになった時、初めて夫が会いに来ることになりました。その日は室内で遊んでいたのですが、夫が部屋に入ってきた途端「あっ」という感じで滑り台の下に駆け込み、30分出てきませんでした。そういう感じで、どちらかというとき常に無表情で、笑顔もほとんどなかったのも、本音を言うと最初はかわいいと思うことができませんでした。それで、この子を本当に預かっていいのかを少し悩みました。

ある時、彼女の担当の保育士さんが部屋に入ってきた時のことです。満面の笑みでその方に近寄って行って、人格が違うんじゃないかと思うほどのはしゃぎようでした。しばらく遊んでいました。それを見たときに嫉妬心さえ生まれたくらいでした。その時、こんな部分もあるのだったらそういう存在の人になればいいと思い、もう少し頑張ってみようと思い直しました。

その後、私が働きかけても何とか拒否されなくなって、面会室で1対1の交流が始まりました。面会室で保育士さんが離れただけで大泣きし、2回目の交流も大泣きで中断。3回目の時、「泣き止むまで頑張って2人で過ごしてみますから、頑張らせてください」とお願いして、最後のほうでようやく泣き止みました。こんなことを繰り返しながら、なんとか1対1で過ごせるようになりました。

交流から5ヵ月後、Aちゃんの2歳の誕生日に初めて外出することになりました。ケーキ屋さんに行ってお誕生日のケーキを買おうとしたのですが、途中の道で大の字になって抵抗するのです。ケーキさんにやっとなり着き、お店に入って並んだケーキを見ても無反応

で、店員さんに声を掛けられても無愛想に無視し、店から出てきました。これがずっと続くなら人に可愛くない子だと思われるだろうな…と心配しました。

その1ヵ月後、少しずつの外泊を重ねた後に、ようやく長期外泊になって我が家にやってきました。最初とはとにかく甘えさせてあげてくださいと言われていたので、危ないこと以外は甘えさせてあげるようにしたのですが、最初のうちは抱っこされることやおんぶ、頬ずりも嫌がりました。施設ではたくさんの子供がいるので、あまり経験がないのです。お風呂も毎日号泣で、隣人に虐待されていると思われたらどうしようと心配でした。公園に連れて行っても乗り物を怖がって乗りません。初めてのことを受け入れるのに少し時間のかかる子で、それが施設にいたことで更に強くなっていたのかと思います。

また、年齢にしては言葉の遅い子でした。子育てが初めての私には、言葉なしには子供の要求がわかりません。だから、最初の3ヶ月は本当に苦勞しました。彼女も私も大変なストレスを抱えた時期でしたが、乳児院の保育士さんや児童相談所の方に相談し、なんとか乗り切ることができました。そして、3ヶ月を過ぎた頃に突然シャワーのように言葉が溢れ出しました。話せるようになると本人も嬉しいようで、担当の保育士さんに出していた明るい性格が、その時初めて出ました。結構ひょうきんで、食いしん坊。来てから3ヶ月くらいの時には大人と同じくらいの量を食べるようになりました。ちょっと食べ過ぎかなと思い、あまり「食べたい、食べたい」と言うときは「あれ、ちょっとママ耳が聞こえなくなっちゃったから、何て言ってるかわからないな」というと、耳をふさいでいる私の手を一生懸命取って「聞こえて、聞こえて」と耳に口をつけて言うんです。その時初めて「ああ、可愛いな」と思い、その頃から本当に可愛いなと感じるようになりました。

人見知りも少しずつなくなり、お風呂も抱っこもおんぶも今は大好きで、ほっぺにキスもしてくれます。最初の頃と比べると、まるでうそのようです。

改めて、彼女の可愛い部分もたくさん分かった上で、今は反抗期の真っ只中です。3歳を迎えるにあたって今は何でも「イヤ」です。でも、逆に言えば育児書に載っている悩みばかりになりました。他のママに相談しても、教えてもらえることばかりになったので、今は本当に普通の親子になったのかなと思います。

今思うと、子供と一緒に暮らしたいなんて、何て甘いことを考えたんだろうと思います。外から見ると実際に育てるのとでは大変さが全く違うことがよく分かりました。でも、その甘さがなければ今のような経験はできなかつたし、やっぱりやって良かったなと本当に思っています。

先日、久しぶりにあのケーキ屋さんに行きました。嬉しそうにケーキを眺め、「これ、これ」と大きな声で喋り、愛想良く「バイバーイ」と挨拶していくAちゃんを見て、良かったなと改めて思いました。これからもできるだけ長く見守っていきたいと思います。

19 子供にとっての新しい家族の形

【里父】

この4月から、3歳の男の子を預らせていただいております。私は、随分前から友人、知人から里親になるように勧められていましたが、もしかしたら実子を授かるかもしれないことと、10年前に脳梗塞で倒れた母親が4年前に再度発作を起こし、全身不随になってしまったことから介護もあり、今一步踏み出せないでいました。

昨年9月に、その母親が亡くなり、介護の時間を里子の養育に回せる気持ちの余裕ができ、研修を受けて登録させていただきました。

初めて、今うちで預かっている子を紹介されたのが11月で、本人の写真と履歴書をもって児童相談所の方が私の家に訪ねて来られました。家内と話し合っていたのは3歳くらいの男の子か女の子という条件だけで、とにかく一番最初に紹介された子を預らせてもらおうと決めていました。

12月25日に初めて、顔合わせをしましたが、最初からすごく懐いてくれて、この子ならいつでも連れてきて大丈夫だという気持ちが二人とも湧いていました。間隔をあげないよう、1日おきに2人もしくはどちらかが顔を出しました。しょっちゅう施設に通いました。行く度に、僕たちの顔を見ると嬉しそうに「お父さん、お母さん」と駆け寄ってくるし、本当に自分達としては良い子とめぐり会えたと思いました。しかし、交流は施設全体の子と一緒にすぐ近くの公園を一周回って帰ってくるだけ。あとは面会室でブロック積みや絵本を読み、11時過ぎに手を洗いお昼を食べさせ、オムツを取り替えてさようならというのがずっと続きました。自分達は1日でも早く、うちに連れて行きたい。はやければ早いほど家に馴染んでくれるだろうといらいらしていました。

そうしているうちに、子供と夫婦で3人の外出の許可が出ました。施設では、事故が起きないように、怪我をしないように、安全を優先するあまり、動きがない生活をしています。歩けない子は5～6人乗りの乳母車に乗り、歩ける子は公園一周。私の膝の上に乗せて、お滑りやブランコをしましたが、ものすごく怖がりました。

交流を重ねていくうちに、1泊2日、2泊3日、間をあけて、一週間、間をあけて今度は1ヶ月。どうしてこんなに面倒くさいことをさせるんだろうと思いました。最後の1ヶ月の外泊が終わって、一旦施設に戻しました。「4月6日に迎えにきてください、それからはあなたのお宅でこの子を育ててください」と言われたのが正式な最後の言葉です。

迎えに行った当日は、新品の靴と靴下、シャツとズボン、それからアンパンマンのブロックセットを抱えて彼が玄関に現れたのを覚えています。

最初から、家族みんなが大賛成だったわけではありません。同居している弟や妹、父親は、家がひっちゃかめっちゃかになるのではと不安を抱いておりました。写真を見せたり、情報を伝えることで安心してくれ、今ではとても可愛がってくれています。私達の見えていないと

ここで、チョコレートを渡したり、ビスケットをポケットに入れたり頼まないことまでしてくれます。母を亡くして孤食・個食だった父も、里子が来て朝は「おはようございます」寝る前は「おやすみなさい」と言いにくるので、抱きしめて最高に喜んでいきます。

また、交流をして驚いたことは、ブランコやお滑りができないこと以外に入浴のこともありました。施設の中で、ユニットバス、流し、茶ダンスがある一般家庭のような部屋があり、そこで朝から晩まで彼と過ごす経験をしました。朝、散歩に行つて、帰つてきて遊んで、お昼を食べて、お昼寝をさせて、3時のおやつを食べて、お風呂に入れて、夕ご飯を食べさせて、さようならという1日コースです。そこで、甥も姪もたくさんいる私が、自信満々でお風呂に臨んだのですが、彼は全身を震わせて泣きました。施設では浅いお風呂に5～6人一緒に入るので、深い湯船でマンツーマンの入浴に抵抗を感じたようです。自宅でも、最初のうちは、大だらいを用意して10センチくらいお湯を入れて、おぼれない深さで遊びました。だんだん慣れてきて、今は一般的なお風呂に入っています。

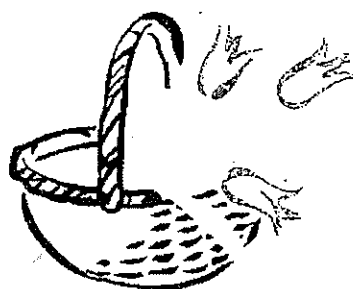
職員の方が大事に大事に彼のことを育ててくれましたが、やはり手が足りないのが現実で、施設の子供達に遅れが出てきているのはそのためだと思います。今は、体があいている限り、午前と午後と私と家内が協力して、どちらかが必ず散歩や公園に行く。あるいは、三輪車に乗ったり、棒がついて安全が確保できるような二輪車に乗ったりして近所を走り回っています。

たった一人が増えたおかげで、家の中のバランスも良くなって、近所とのバランスも良くなって、本当にありがたい。本当にそう思います。最近はやっと反抗期が出ています。これから先も、もっと悩んだり苦しんだりすることが出てくるとは思いますが、甘んじて受けようと思います。僕達は、何歳までというのではなく、彼がいたかったら一生この家に居て良い、居たかったらいくつになってもここに居て良いんだよと家族で決めています。

今は、大人を独占できることを味わい、おじいちゃん、おばあちゃん、おじさん、おばさん、いところが13人でき、とても良い環境にあると思います。

社会に向かって大して何ができるわけじゃない自分がいろんな方のご尽力をいただいて、子供を紹介していただき、育てさせてもらっているということが、私は社会の一員としてとてもありがたいと思うし、本当に二の足を踏んでいる方がまだ周りにはいるのであれば、「里親は早いうちにやったほうが良いですよ」と言いたい。

1人でも多くの子が施設ではなく、家庭で育ていけるような社会に向かって微々たるものではありますが、前進していきたいです。



平成21年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	講演会 講師名	担当児童相 談所	参加人数				
				養育家庭・ フレンドホーム	区市町村	民生・ 児童委員	一般・ その他	合計
7月9日	昭島市児童センターばれっと集会室		立川	3	3	4	8	18
9月14日	狛江市役所会議室		世田谷	2	7	3	5	17
9月29日	羽村市生涯学習センターゆとりぎ 講座室		立川	2	4	6	13	25
9月29日	文京シビックホール4階シルバーホール		センター	2	6	2	15	25
9月29日	小平元気村おがわ東		小平	4	3	1	8	16
10月2日	国分寺Lホール		小平	3	6	1	11	21
10月6日	台東一丁目区民館地下1階多目的室		センター	1	8	23	56	88
10月6日	調布市文化会館たづくり 8階映像シアター		多摩	4	11	9	17	41
10月8日	清瀬市児童センター会議室		小平	2	4	4	3	13
10月9日	立川市女性総合センター アイム第3学習室		立川	3	3	4	20	30
10月15日	西東京市住吉会館ルピナス		小平	3	5	14	12	34
10月20日	新宿区落合第一地域センター 多目的ホール	高山恵子	センター	3	10	22	29	64
10月22日	北区赤羽文化センター		北	1	0	7	16	24
10月22日	中野区勤労福祉会館		杉並	2	15	1	9	27
10月22日	福生市子ども応援館1階子育て地域活動室		立川	4	6	5	15	30
10月23日	日野市役所5階505会議室	片倉昭子	八王子	6	10	9	31	56
10月24日	狛江市中央公民館2階講座室		世田谷	2	2	4	7	15
10月25日	中央区立教育センター		センター	5	8	11	36	60
10月27日	武蔵村山市民総合センター3階会議室		小平	1	9	0	16	26
10月28日	墨田区役所 121会議室	野沢慎司	墨田	3	8	0	32	43
10月28日	多摩市立健康センター2階会議室		多摩	1	3	0	40	44
10月29日	荒川区ムーブ町屋		北	4	1	0	19	24
10月29日	八王子市生涯学習センタークリエイティブホール	大庭尚子	八王子	12	17	9	80	118
10月30日	三鷹産業プラザ		杉並	7	26	2	10	45
11月7日	港区立子ども家庭支援センター	濃井さゆり	センター	1	8	8	65	82
11月9日	武蔵野市中央コミュニティセンター		杉並	3	18	0	11	32
11月10日	府中市子ども家庭支援センター たつち		多摩	3	7	10	12	32
11月12日	小金井市前原暫定集会施設A会議室		小平	4	4	1	5	14
11月13日	板橋区グリーンホール		北	3	0	3	12	18
11月13日	東大和市子ども家庭支援センター会議室		小平	6	5	3	10	24
11月13日	町田市民フォーラム	辻野恵子	八王子	5	11	0	103	119
11月13日	あきる野市中央公民館第6・7研修室		立川	6	5	4	12	27
11月14日	稲城市地域振興プラザ4階		多摩	0	4	7	8	19
11月14日	大田区立消費者生活センター大会議室		品川	2	8	18	10	38
11月19日	東村山市民センター2階会議室		小平	4	2	14	35	55
11月21日	目黒区役所総合庁舎1階E会議室		品川	0	6	23	13	42
11月24日	葛飾区男女平等推進センター多目的ホール		足立	8	5	3	15	31
11月26日	豊島区民センター		センター	2	6	42	13	63
11月26日	東青梅センタービル会議室		立川	2	6	21	14	43
11月28日	品川区中小企業センター2階大講習室		品川	1	9	33	6	49
11月28日	アンサンブル荻窪		杉並	3	15	1	23	42
12月3日	足立区子ども家庭支援センター地域活動室I		足立	7	2	4	13	26
12月3日	東久留米市役所1階市民プラザ		小平	3	7	25	11	46
12月5日	世田谷区男女共同参画センター らぶらす	松居直	世田谷	2	1	27	65	95
12月7日	江戸川区船堀タワーホール		墨田	2	17	33	33	85
12月7日	練馬区役所20階 交流会場		センター	1	11	2	22	36
12月7日	国立市役所第1・第2会議室		立川	1	2	0	16	19
1月19日	渋谷区役所地下A会議室		センター	2	7	1	23	33
1月30日	江東区南砂子育て支援センター		墨田	8	6	0	28	42
2月4日	瑞穂町元狭山コミュニティセンター		立川	2	3	11	11	27
3月8日	多摩市子育て総合センター		多摩	0	2	1	8	11
	合 計			161	352	436	1105	2054

平成21年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	7/9 昭島	9/14 狛江①	9/29 羽村	9/29 文京	9/29 小平	10/2 国分寺	10/6 台東	10/6 調布	10/8 清瀬	10/9 立川	10/15 西東京	10/20 新宿	10/22 北	10/22 中野	10/22 福生	10/23 日野	10/24 狛江②	
年齢 ~20代	0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	1	1	4	1	3	9	4	
30代	2	2	3	6	1	0	4	2	0	1	5	3	1	6	3	2	2	
40代	1	5	0	7	2	2	2	6	0	4	3	4	3	3	2	8	1	
50代	3	4	8	4	0	0	13	9	1	2	6	11	9	0	3	8	4	
60代～	2	5	2	4	0	3	37	6	1	4	9	14	5	1	4	8	4	
不明・無回答	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0	1	0	
性別 男性	1	3	3	10	0	2	12	5	2	1	5	3	4	1	0	4	1	
女性	6	13	10	10	3	3	38	20	0	11	19	29	18	10	14	29	14	
不明・無回答	1	1	0	1	0	0	6	2	0	0	2	1	2	0	1	3	0	
所属 養育家庭	1	2	0	0	0	1	0	3	0	2	1	3	1	0	1	0	2	
フレンドホーム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
都職員	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	3	3	0	
区市町村職員	3	7	1	5	0	0	6	1	0	1	0	5	0	1	2	1	2	
民生児童委員	0	3	5	2	0	0	19	1	1	3	13	16	2	1	2	1	4	
主任児童委員	3	0	0	1	1	1	2	2	0	0	0	3	6	0	2	7	0	
学生	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	2	0	0	4	3	
一般	0	4	3	9	2	2	6	11	1	4	10	1	8	9	3	12	4	
その他	0	0	2	3	0	0	20	5	0	1	0	4	4	0	2	8	0	
不明・無回答	1	1	1	0	0	1	2	2	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																		
区報・市報で	3	7	7	2	2	1	16	5	0	3	9	8	3	3	2	10	6	
都報で	0	0	0	3	1	1	2	5	0	2	8	0	1	3	0	5	0	
ポスターで	0	0	0	1	0	1	3	0	0	0	2	0	1	1	1	2	2	
チラシで	1	8	1	3	1	3	17	5	0	3	4	7	2	2	5	8	6	
インターネットで	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	1	1	3	2	0	3	1	
知人に勧められて	3	0	3	0	0	0	6	2	0	1	1	0	11	2	1	3	1	
過去に参加	3	0	3	2	0	1	8	4	0	5	6	5	1	2	3	7	3	
問い合わせた	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	1	0	
その他	1	0	0	6	0	1	14	7	2	2	3	15	6	0	5	10	2	
不明・無回答	1	2	0	0	0	0	5	2	0	0	0	2	0	0	0	1	0	
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																		
養育家庭になりたい と思っていたから	0	0	1	3	0	0	1	3	1	3	3	0	0	1	2	1	0	
養育家庭制度に興味・関心があったから	2	10	5	5	3	2	17	9	2	4	9	10	13	7	5	14	8	
子育てに関わる話が聞けると思ったから	2	6	5	5	0	1	18	7	0	2	9	10	10	3	3	7	4	
仕事や学問などの参考にするため	5	0	2	5	2	1	16	8	1	3	9	17	9	3	7	18	2	
その他	1	0	1	2	0	1	4	3	0	1	0	4	3	0	0	5	4	
不明・無回答	0	1	0	0	0	1	7	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	3	6	10	7	3	1	21	16	2	8	10	11	11	8	8	11	8	
良かった	3	9	3	9	0	2	21	7	0	3	12	16	12	0	3	21	2	
普通	0	1	0	2	0	0	1	1	0	1	1	3	1	0	2	2	2	
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
不明・無回答	2	1	0	3	0	2	13	3	0	0	3	3	0	3	2	2	3	
感想	5	0	6	6	3	5	33	12	2	6	7	16	15	7	9	16	0	
アンケート回答	8	17	13	21	3	5	56	27	2	12	26	33	24	11	15	36	15	
参加者総数	18	17	25	25	16	21	88	41	13	30	34	64	24	27	30	56	15	

**養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのでき
ない子供たちを養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活
し、養育していただく里親制度です。**

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格はあるの？

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。
配偶者がいない場合は、子供の養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、
養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ お預かりいただく子供は？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、お
おむね 18 歳までの子供です。

★ お預かりいただく期間は？

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子供を継続して預かるかどうかの意思を確認させ
ていただきます。

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の
額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子供の養育を一時的に休息できます。
- ほっとファミリーどうしが集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

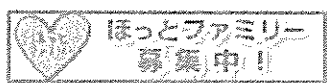
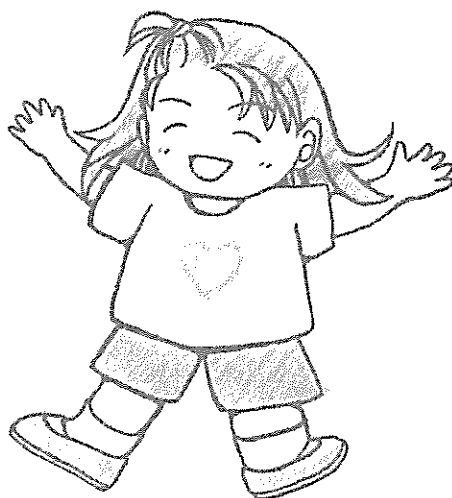
【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

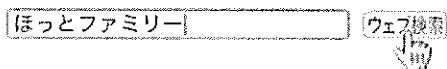
電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



こちらのホームページもご覧ください。

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



養育家庭体験発表集
平成22年9月発行

登録番号(22)141

発行 東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課
東京都新宿区西新宿2-8-1
電話03(5320)4135 FAX03(5388)1406
印刷所 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西2-22-26
電話03(3762)7611

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。